

沙羅の樹文庫だより



今度は、オーロラ観られましたよ!
(カナダ・イエローナイフにて)

巳の年が始まりました。.....

あいさつ.....作・へびいちのすけ

さんぽを しながら
ぼくは しっぽに よびかける
「おい、げんきかあ」
すると むこうの くさむらから
しっぽが ハキハキ へんじをする
「げんき ぴんぴん」
ぼくは あんしんして
さんぽを つづける
(『のはらうた 1』くどうなおこと、のはらみんな)

今年はどうなる年になるのでしょうか。
政府が変わって、何かが動くのか、私たちに何ができる
のか考えながら、おもしろいことをみつけて笑いましょ
う! たのしい本を読んで語りましょう!
今年も沙羅の樹文庫でたくさんのいろいろな出会いを
みつけてくださると嬉しいです!



ホットニュース

文庫あれこれ◆東京では雪の成人の日で、

せつかくの晴れ着が台無しになった娘さんも多かったのではないかと思います。3日たった昨日でも、まだ滑って転ぶ人がいました。◆ところが寒い寒いと今朝起きてみたら、文庫の庭にも、お向かいさんの屋根にも白いものが.....◆みなさん、お元気に新年をお迎えのことと思います。今年は20日が大寒だそうです、芯から冷えますねえ。◆ここで暮れに亡くなった小沢昭一(変哲)さんの1月の句をいくつかご紹介。「冬なればこそその青さに空深く」「積もる雪折れる枝やら撥ねる枝」「大寒の夜の六度目か厠月」「踏んづけた猫へ詫びつつ初笑ひ」.....心当たりのある方は? 小沢昭一的ところを味わってみてください。(『俳句で綴る変哲半生記』岩波書店) 文庫に入れました。◆12月半ばお休みをいただいて、カナダに行ってきました。ちょうど1年前、フィンランドでみることでできなかったオーロラを観ることができました。写真に撮ると、緑や赤やピンクになるのに、肉眼では薄グレーにししか見えないのですが、空の美しい変わりように心を洗われました。◆昨日、今期の芥川賞、直木賞が発表されました。今月はまだ入れてないのですが、母が逝って身が軽くなったはずなのに、めっきり力が萎えて、暮れからずっと家に閉じこもっていたので、気になる本をネット注文したら30冊以上(大人だけで)になってしまいました。その中に皆さんの好きな本をみつけていただけたら幸せです。◆空には黒い雲がかかっていますが、太陽が今日も1日輝くぞと、オレンジの光を送ってきます。大島は美しい朝焼けです。今年もみなさまがお健やかに過ごされますよう。(西村)

★駐車に関するお願い★

文庫の近所の方?からハガキにてお叱り受けました。
路上駐車のことです。みなさんが同じ時間に集中してしまうのは致し方ないのですが、文庫の反対側(グラナダさん前)に文庫の駐車スペース3台分があります。使われていないこともあるように思います。母屋を抜けてきていただくと結構ですので、ぜひ駐車場を使ってくださるようお願いいたします。近くの方は、散歩がてら、時には徒歩でおいでください。ご理解・ご協力をお願いします。

4人の子育て中ママ・キャロルさん、伊東市・子育て支援テーマ「創造大賞」<すぐできるよ>実現部門を受賞

5月の催しのお知らせ

- ♥アートフェスティバル参加: 11日~20日開館
テーマでめぐる文庫まるごと展
文庫の本を面白いテーマ別にならべてお見せします
 - ♥若葉のころのおはなし会
18日夕5:00~ (大きい人向け)
19日午前10:30~11:45(子ども向け)
ゲスト: 立川おはなしボランティアの皆さん
 - ♥本について語りましょう会
12日(日)午後3:10~5:30
- ### 7月の催し物のお知らせ
- ♥海の日のおはなし会 会場は伊豆高原駅くすのきの下
7月14日(日)午後5:00~7:30
 - ♥文庫開館記念子どものためのおはなし会
7月15日(月)午前10:30~11:45

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ! ◆ 2月は4週に変更。23日(土)、24日(日)
- ◆ 3月は通常16日(土)、17日(日)
- ◆ 4月は通常20日(土)、21日(日)
- ◆ 5月は変則11日(土)~20日(月) long
- ◆ 6月は通常15日(土)、16日(日)
- ◆ 7月は通常13日(土)、14日(日)
- ※15日午前は開館記念日おはなし会
- ◆ 8月は16日(金)~20日(火) ロング

※文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、
日曜日は午前10時~午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜11:00~13:00

連絡先 沙羅の樹文庫 電話: 0557-51-3737

1月に文庫に入った子どもの本

絵本：

『こけこっこー』(林木林作 西村敏雄絵 すずき出版 2011) 『わたしのゆたんぼ』(きたむらさとし作 偕成社 2012) 『うそついちゃったねずみくん』(なかえよしを作 上野紀子絵 ポプラ社 2012) 『どっちがへん？スペシャル』(いらいとしお作 紀伊国屋書店 2012) 『もっちゃんもっちゃん もうもっちゃん』(土屋富士夫作・絵 徳間書店 2000) 『これは本』(レイン・スミス作 青山南訳 2011BL出版1 『物語の迷路』(香川元太郎作・絵 PHP研究所 2012)

読み物：

『はじめての古事記』(根岸貴子・竹内淑子文 スズキコージ絵 徳間書店 2012) 『夜の小学校で』(岡田淳作 偕成社 2012) 『白狐魔記・元祿の雪』(斎藤洋作 偕成社 2012) 『ピース・ヴィレッジ』(岩瀬成子 偕成社 2011)

『ふしぎな八つのおとぎばなし』(ジョン・エイキン文 ケンティン・ブレイク絵 こだまともこ訳 富山房 2012) 『なんでもふたつさん』(M・クラッチぶん 光吉夏弥やく K・ビーゼンえ 大日本図書 2,010) 『犬のことが聞こえたら』(パトリシア・マクラクラン作 こだまともこ訳 2012)

『クラーケンの島』(エヴァ・イボットソン作 三辺律子訳 偕成社 2011) 『ペッパー・ルーと死の天使』(ジェラルディン・マコックラン作 金原瑞人訳 佐竹美保絵 偕成社 2012) 『小公女』(フランシス・ホジソン・バーネット作 高樓方子訳 福音館書店 2011)

文庫：

『小公女』(バーネット作 脇明子訳 岩波少年文庫 2012) ※上記単行本と同じ原作を訳者を変えてくらべ読みをおすすめ。 『ティーパーティーの謎』(カニグズバーグ作 岩波少年文庫) ※ニューベリー賞受賞作。 『レ・ミゼラブル上・下』(ユーゴー作 豊島与志雄編訳 岩波少年文庫 1953) ※映画化の折、再読したらいかがでしょう。

リスト：『絵本の庭へ』(東京子ども図書館編・刊)

1月に文庫に入った大人の本

フィクション：

『路ルウ』(吉田修一著 文芸春秋 2012) 『歓喜の仔 上下』(天童荒太著 幻冬舎 2012) 『冷血 上下』(高村薫著 毎日新聞社 2012) 『64』(横山秀夫著 文芸春秋 2012) ※request 『55歳からのハローライフ』(村上龍著 幻冬舎 2012) 『ウェストウィング』(津村記久子著 朝日新聞出版 2012) 『神去なあなあ夜話』(三浦しをん著 徳間書店 2012) 『謎解きはディナーのあとで』(東川篤哉著 小学館 2012) 『世界から猫が消えたなら』(川村元気著 マガジンハウス 2012) ※寄贈 『希望の木』(新井満著 大和出版 2011)

『終わりの感覚』(ジュリアン・バーンズ著 土屋政雄訳 新潮社 2012) 『フランス組曲』(イレヌ・ネミロフスキー著 野村歓・平岡敦訳 白水社 2012) 『新装版 ハドリアヌス帝の回想』(マルグリット・ユルスナール著 多田智満子訳 白水社 2008) ※須賀敦子全集3にこのユルスナールを描いた「ユルスナールの靴」が入っている。文庫在。

評伝：

『余りの風』(堀江敏幸著 みすず書房 2012) 『樋口一葉考』(中村稔著 青土社 2012) 『最後の一人ー詩人高群逸枝』(石牟礼道子著 藤原書店 2012) ※『高群逸枝全集』全10巻在。関心のある方はお尋ねください。 『想いの軌跡 1975-2012』(塩野七生著 新潮社 2012) 『俳句で綴る変哲半生記』(小沢昭一著 岩波書店 2012)

ノンフィクション：

『一四一七年その一冊がすべてを変えた』(スティーブン・グリーンブラッド著 河野純治訳 柏書房 『乾いた沈黙』(ヴァレリー・アフアナシェフ著 尾内達也訳 論創社 2009.) 『ピアニストのノート』(ヴァレリー・アフアナシェフ著 大野英士訳 講談社 2012) ※数年前の再放送で「漂白のピアニスト」をみてつい購入。

ノンフィクション・科学

『山中伸弥先生に、人生と iPS 細胞について聞いてみた』(山中伸弥・緑慎也著 講談社 2012) 『ふたりの微積分』(スティーヴン・ストロガッツ著 南条郁子訳 岩波書店 2012)

ノンフィクション・生活

『それでもわが家から逝きたいー在宅介護の現場から』(沖藤典子著 岩波書店 2012) 『呑めば、都一居酒屋の東京』(マイク・モラスキー著 筑摩書房 2012)

新書：

『別れる力』(伊集院静著 講談社 2012) 『四季のうたー詩歌のくに』(長谷川權著 中公新書 202)

文庫：

『三千枚の金貨 上下』(宮本輝著 光文社文庫) 『永遠の仔 1~5』(天童荒太著 幻冬舎文庫) ※request 『おなか ほっぺ おしり』(伊藤比呂美著 中公文庫) 『いつも一緒にー犬と作家のものがたり』(新潮文庫編集部編 新潮文庫) 『あまりにロシア的な』(亀山郁夫著 文春文庫) 『昭和16年夏の敗戦』(猪瀬直樹著 中公文庫)

『密封ー奥右筆秘帳』(上田秀人著 講談社文庫) 『春の椿事ー鎌倉河岸捕物控』(佐伯泰英著 ハルキ文庫)

※上記2冊寄贈

『メイプル・ストリートの家』(スティーヴン・キング著 永井淳訳 文春文庫) 『風の影 上下』(カルロス・ルイス・サフォン著 木村裕美訳 集英社文庫) 『ドン・リゴベルトの手帖』(マリオ・バルガス・リョサ著 西村英一郎訳 中公文庫)

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

広瀬さんからいただいた絵本・先月からのつづき

『おとうさんのかさ』『ことばあそびどうぶつえん』『ぐるぐるカレー』『おままごと』『ようちえん いやや』『かえるのそらとぶけんきゅうじょ』『ポッチとノンノ』『14匹のせんたく』『泥かぶら』※昔話 『キムのふしぎなかさのたび』まだまだたくさん・・・

目や頭やその他諸々の衰えと共に読書量がぐんと減り、不十分なものになりましたが、おすすめをあげてみました。沙羅の樹文庫のおかげで、素敵な本と本仲間に出会えることは私にとって最上の幸せです。今年もいい本に巡り逢いたいと思いますし、お仲間と本のおしゃべりを楽しめたらと思っています。

今年の1冊目は、小川洋子著「ことり」を選びました。私は毎年、新年の1冊目を少し慎重に選びます。手元にある本の中から、「今年も幸せな読書生活ができますように」と思って・・・これは大好きな小川洋子、裏切られませんでした。「ことりの小父さん」と呼ばれる主人公の一生が胸にしみました。伊豆高原に暮らして「ぼ一ぽ一語」を話し、自然の中で小鳥に慰められ、(人が何と言おうと)私らしく静かに年を重ねたい・・・今年もわがままを通して11年目の伊豆暮らしを過ごしたいと思っています。よろしくお願いいたします。(沙羅の樹文庫応援部 中西)

❖小川 恵著

「銀色の月 一小川国夫との日々」岩波書店
亡くなった作家との生活を心に屈託を持ちながら連作短編で描き出す

❖ジェイミー・フォード著 前田一平訳

「あの日パナマホテルで」集英社文庫
中国系米国人の若者と日系米国人少女 第二次大戦下のアメリカで二人の恋の行方は・・・

❖永田 和宏著

「歌に私は泣くだろう 一妻河野裕子闘病の10年」新潮社
この前の作品「家族の歌」の方が二人の歌人の生活が穏やかに綴られていて、私は好き

❖辰巳 芳子著

「庭の時間」文化出版局 ※これは伊東図書館の本
鎌倉に住む著者が庭から採った野菜を料理

❖安武 信吾著

「はなちゃんのみそ汁 一天国のママとの約束」文芸春秋
若くしてがんで亡くなることが分かっているママが娘に願うことは・・・食のはなし

❖小川 洋子著

「最果てアーケード」講談社
ちょっと不思議ですてきな小川ワールドで売られているのは 義眼とかドアノブとか

❖小高 賢著 「老いの歌」岩波新書

「おかあさんにあいたい」と泣く真夜中の母を泣きやむまでさすりおる

❖井上 荒野著

「静子の日常」中央公論新社
75歳のおばあちゃんのおせっかいが好き

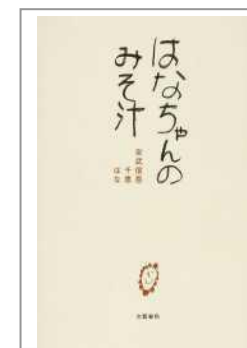
❖ロバート・コーミア著 原田勝訳

「ぼくの心の闇の声」徳間書店
ユダヤ人のおじいさんが木彫りで自分の思い出の村を作っている。ぼくがそれを壊す？

❖サイモン・フレンチ作 野の水生訳

「そしてぼくの旅はつづく」福音館書店
ヴァイオリンを弾く少年と父や仲間との生活そして彼の成長を追って・・・
※上記2冊は児童書の棚にあります。

★右に転載の表紙は、形、大きさ、そのままではありません。これで想像して本をお探してください。



鎌倉
れは

こ

1) 2010年4月16日

「増補版 敗北を抱きしめて—第二次大戦後の日本人—上・下」 ジョン・ダワー著 三浦陽一・高杉忠明 訳 岩波書店

日本人はなぜ戦争に負けたのに「敗北を抱きしめ」たのか、しっかりとした事実確認に基づいて展開されている。

2) 2010年12月15日

「弱い神」 小川 国夫著 講談社

556 頁もある厚い本だからさすがに読み出があつて、3 日くらい読むのにかかったが、久し振りに夢中になって読める小説だった。

3) 2011年2月16日

「現代中国知識人批判」 劉曉波 著 野沢俊敏 訳 徳間書店

2010 年度のノーベル平和賞に指名された中国人劉曉波は中国の伝統的な道教・儒教などの諸思想を徹底的な否定して、完全な西欧思想・制度の受容を主張する。ふと明治維新直後の日本のスローガン、「脱亜入欧」を想起した。

2011年6月

「最期の審判を生き延びて」 劉曉波文集 廖天琪・劉霞編 丸川徹史ほか訳 岩波書店 2011年2月刊

中国の劉曉波の書いた時事評論・政治評論・文書(08 憲章・裁判陳述書など)・詩などを広く収録した資料集。現代中国における「孔子ブーム」に対する仮借なき批判—「聖人として祭られた孔子は、先秦諸子の中で最も凡庸な道徳の説教者である。」

4) 2011年6月

「チボの狂宴」 マリオ・バルガス・リョサ著 八重樫克彦 訳 作品社刊 2011年3月刊

2012年4月12日

「悪い娘の悪戯」 マリオ・バルガス・リョサ著 八重樫克彦ほか訳 作品社刊 2012年2月刊

バルガス・リョサを読むのには、とにかくエネルギーが必要。ステーキでも食べてから読みましょう。

5) 2011年10月

「民主と愛国」 小熊英二著 新潮社刊

「戦後日本のナショナリズムと「公—おおやけ—」にかかわる言説が、敗戦直後から 1970 年代までに、いかに変遷してきたかを検証したもの」と言うが、膨大な資料を読みこなして(引用した資料に関する「注」の記事だけで 120 ページある)、総括した記念碑的な力作である。

6) 2012年1月20日

「持ち重りする薔薇の花」 丸谷才一著 新潮社刊 2011年11月刊

見事な話術＝記述で、一気に読者を乗せてしまう、その巧さ、まさに小説の名手だ。

7) 2012年3月18日

「炭鉱に生きる—地の底の人生記録」 山本作兵衛著 講談社刊 2011年10月刊

当時の炭鉱の過酷きわまる労働、炭鉱労働者の想像を絶する貧しさ、しかしその中で果敢に生き抜いていく社会の最底辺の庶民の生き様が見事に記録されており、感嘆に堪えない。

8) 2012年5月14日

「福島第一原発—真相と展望」 アーニー・ガンダーセン著 岡崎 玲子訳 集英社刊 2012年3月刊

事故直後の日本政府の発表はウソだった。結局事態は彼の指摘どおりのメルトダウンであったのだ。

9) 2012年7月10日

「昨日のように遠い日—少年少女小説一選」 柴田元幸編 2009年3月刊

久し振りに「文学的香気」！を味わった気がする。付録の漫画 2 枚もやたらに面白い(どれも「うまうまと騙された！」と悲鳴を上げさせるように出来ている。)

10) 2012年8月11日 ポプラ社刊の「百年文庫」の43「家」の中の フィリップ『帰宅』

2012年10月16日 ポプラ社刊の「百年文庫」の30「影」の中の 永井龍男『冬の日』

いずれも人生の陰影・悲哀を見事に映し出した名短編。

11) 2012年11月16日

『評伝ナンシー関「心に一人のナンシーを」』 横田増生著 2012年8月第4版

消しゴム版画と TV 批評、サブカルチャーといわれる世界で一世を風靡した、一種の天才とも言える女性。39歳で死んだナンシーは凄人だったのだ。